

ひとはく通信

ハーモニー

120

Mar. 2023

企画展 六甲山のキノコ展2023
～地球はキノコで出来ている～



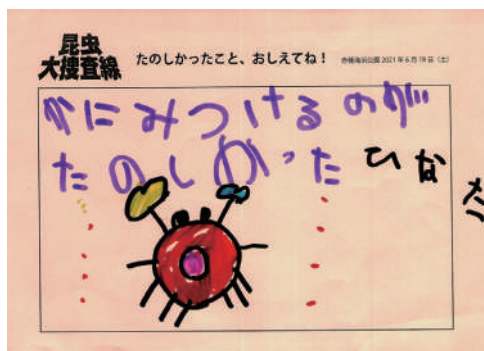
工場跡地を整備して設置された尼崎の森中央緑地では、「100年の森づくり」が進められています。森が育つと生き物の種類も変わりますね。その変化をみんなで楽しく捉えるにはどうすればいいのかな。本格的な植樹が始まった2014年、県の担当者がひとへ相談に来られました。私は小学校団体向けに実施していた「虫とりペナントレース」を一般向けにアレンジすることを提案し、当時の担当者はそれを「昆虫大捜査線」と名付けました。同年9月に開催したこのプログラムは想定を超える大人気となり、公園管理者の方も、多種多様な虫がいることに驚くとともに、参加者の笑顔に自然を生かした公園づくりへの手応えを感じられたようです。



昆虫大捜査線の主な参加者は子どもたちとその家族
2022年6月12日淡路島公園

昆虫大捜査線は、以後、各地の公園や類似施設へと波及し、同様のプログラムは2022年までに但馬から淡路まで41回開催され、延べ6,600人が参加、800種以上15,000匹近くの虫(昆虫以外の小動物も含む)が記録されました。公園にとっては、自然環境をモニタリングしつつ、利用者の拡大と満足度の向上になります。ひとへにとって公園は、生き物や自然に触れる体験の第一歩を踏み出す場として、非常に重要な空間です。これからも連携を深め、みなさんに楽しい機会を提供していきたいと思います。

八木 剛(コミュニケーション・デザイン研究グループ)



この日は雨天でカニの活動が活発でした
2021年6月19日赤穂海浜公園

トピックス

但馬地域での豊岡高校と連携したセミナー

ひとへは現在、県内の様々な地域でアウトリーチを実施するとともに、高等学校等との連携にも力を入れています。その一環として、2022年8月27日に豊岡高校の協力のもと、但馬地域にて体験型セミナーを行いました。セミナーのテーマは「身近な生き物や簡単な道具でも研究ができる」ことを知ってもらうことです。約10名の参加があり、まずは「城崎楽々浦さくらの名所公園(豊岡市)」にてみんなでショウリョウバッタを採集しました。2時間ほどの採集で約80匹を捕まえ、その場で体

長や脚の長さ、体色などを記録しました。バッタを採るのが上手な人もいれば、苦戦する人もいましたが、それぞれに昆虫採集を楽しんでいる様子でした。その後は豊岡高校へと移動し、データの整理、グラフの作成、結果の解釈をみんなで行いました。参加者のみなさんが積極的に議論に参加してくれたことに加え、参加者間の世代を超えた交流が見られたことも印象的でした。

京極大助(生態研究グループ)



昆虫採集の様子



豊岡高校でのデータ整理と議論の様子

